

川島ケイジ

巻頭インタビュー！

魂を揺さぶる歌唱で大注目の
シンガーソングライター！

本誌「Vol.45」の巻頭インタビューに登場頂いた伝説の音楽人、石坂敬一さんが一番注目し、期待していると語ってくれたシンガーソングライターの川島ケイジ。その歌声は個性的で、存在感があり、日本人離れしている。一度聴けば必ずや魂とハートが揺さぶられ、ソングライターとしての才能にも注目が集まる正にワンアンドオンリーな逸材。昨年 8 月にアルバム『KEIJI』でメジャーデビューを果たしてから半年、更なる飛躍を遂げようとする川島ケイジの単独インタビューが実現！

【2017 年 2 月都内某所にて 取材・文：加瀬正之】

●アルバム『KEIJI』でメジャーデビューされて約半年経ちますが、今の心境を聞かせて下さい。

自分の意識もだいぶ変わりましたし、自分の名刺代わりのアルバムがあることはとても大きいですね。いろいろな場所でインストライブもやりましたし、大きなコンサートの手配もあり、活動の幅も広がっています。

●『KEIJI』に収録のオリジナル「夜の向こう側」「結～yui」は素晴らしい楽曲で、「Woman “Wの悲劇”より」「夏の終わりのハーモニー」もライブで歌われていましたが、選曲はどのように決められたのですか？

『KEIJI』にはカバー 3 曲とオリジナル 2 曲が収録されているんですけど、「Woman “Wの悲劇”より」は石坂敬一さんの前で最初に歌った曲で、この曲を聴いて石坂さんが僕をメジャーデビューに繋げて下さったんです。僕の運命を変えてくれた楽曲なので、この曲は絶対に入れたいと思いました。この曲の作詞を手掛け

た松本隆さんも大好きで、特にこの曲のサビの歌詞が好きでずっと歌っていたんですけど、この曲のおかげで 2015 年 10 月に出演した『THE カラオケ☆バトル』でも大きな反響がありました。それまではロック系の楽曲が多かったんですけど、自分の声にも合っていますし、年齢に関係なく皆さんに知って頂くきっかけになった曲だと思います。「夏の終わりのハーモニー」は Chage さんが薦めてくれた曲で、Chage さんのラジオ番組に出た時に僕に合う曲ということで、この曲を提示してくれました。その時にラジオで井上陽水さんと玉置浩二さんの原曲を流していたんですけど、その裏で Chage さんと一緒に歌っていて「いい感じだね！」って言って下さったんです。それで、メジャーデビューすることになって、発売日が 8 月 31 日で正に夏の終わりだったので、タイミング的にもピッタリということになって、Chage さんに「良かったら一緒に歌って頂けないですか？」という話をして、快諾して頂いたんです。

● Chage さんとのご縁はどの様に生まれたのですか？

僕は静岡でラジオ番組をやっていたんですけど、そのラジオ番組のディレクターさんが Chage さんと繋がっていて、Chage さんに僕の CD を渡して頂いたんです。それで、Chage さんが「凄いいね！」と言って気に入って下さって、Chage さんのラジオ番組にゲストとして呼んで頂いたんです。また、当時僕が住んでいた場所が偶然 Chage さんの事務所の近くで、「一度お茶でも飲み遊びに来いよ！」って言って下さったんです。僕はそれを真に受けて、お菓子を持って何も考えずにアポなしで遊びに行ったら、「お前、本当に遊びに来たのか！（笑）面白い奴だな〜」ってことになって、もう一回ラジオ番組に呼んでくれたんです。そして、僕の番組にも Chage さんが出演してくれたんです。それだけではなく、静岡に「窓枠」というライブハウスがあるんですけど、1 階が「窓枠」で 2 階が「青空」というライブハウスで、ある時、僕は「青空」でライブだったんですけど、同じ日に Chage さんが 1 階の「窓枠」でライブだったんです。それでまた、Chage さんから「遊びに来いよ！」って言って頂いたんです。そういう様々なご縁や運命的なことがあって、その後“Chage Fes.”という Chage さんのイベントにも呼んで頂いて、Chage さん、スガシカオさん、Chay さんと一緒に、何故か僕も並べて頂いたんです。僕は当時 2000 人規模のライブは初めてで、しかもスガシカオさんの直ぐ後の出番だったんです。ステージの袖口でスガシカオさんのライブを見ながら凄く緊張したんですけど、Chage さんが「お前の声だったら大丈夫だから思い切り歌って来い！」って言って下さったんです。僕もそこで何も残せなければ、その先も無理だなと思ったので、覚悟を決めて歌って、Chage さんとも「エピソード」という曲をデュエットさせて頂いたんです。ステージを終えて戻って来たら、Chage さんが凄く喜んでくれて、「お前の行く末を見届けたくなった！」と言って下さって、僕もその時の経験が凄く大きな自信になったんです。そのようなご縁が続いて、今回も 5 月から始まる Chage さんのホールツアー“Chage Hall Tour 2017 ~Have a Dream!~”にゲスト出演させて頂くことになったんです。

● アルバム『KEIJI』のジャケットでもグレッチのギターを手にしていますが、グレッチのギターを愛用しているのですか？

大学の軽音楽部でロックバンドを組んだ時に買いました。ブランキー・ジェット・シティやミッシェル・ガン・エレファントの影響もありましたが、楽器屋に音に行くと、グレッチのギターの見た目とセミアコの音にも惚れましたね。それ以来ずっと愛用しています。

● 4 月 11 日に開催される“川島ケイジ Music is My Answer スペシャル・コンサート 2017”では、ジャズ・ピアニストのハクエイ・キムさん率いるトライソニックとの異色のコラボが実現しますが、ハクエイさんとのご縁はどの様の生まれたのですか？ また、どんなコンサートになりそうですか？



写真提供：クリームインターナショナル

昨年 8 月にジャズ・フェスを見に行った時にハクエイさんが演奏されていて、「ジャッキー・オン・ザ・ラン」という曲をやっていたんです。僕はその曲に凄くロックを感じてカッコいいなと思って、いつか共演してみたいと思ったんです。今回のコンサートは日本ポピュラー音楽協会の方に気に入って頂いて開催が決まったんですけど、「誰と一緒にやりたいですか？」と言われた時に、「ぜひハクエイさんと一緒にやりたいです！」と話したんです。今回 1 曲ハクエイさんの楽曲に僕の歌詞を乗せて歌うことも考えているんですけど、それも今とてもいい形になっているんです。新しい曲が生まれそうだなと思っています。このコンサートのタイトルは“Music is My Answer”なので、オリジナルとカヴァー曲と共に音楽的にクリエイティブな面でも自分を表現して、自分の音楽人生を全部出せるくらいのパフォーマンスをしようと思っています。あと、ゲストに水夏希さんも出演して頂くので、華やかなステージになると思います。

● 以前ライブでトニー・ベネットとレディー・ガガがデュエットしたジャズ・ナンバーを歌われていましたが、ジャズは以前から聴かれていたのですか？

今までずっとロックをやってきたので、ジャズとの接点はこちら最近からです。でも、トニー・ベネットは好きだったので、4 月のコンサートでも水夏希さんとトニー・ベネットとレディー・ガガのデュエット曲をやる予定です。ジャズはこれからいろいろと聴いてみたいです。

● 憧れていたシンガーやシンガーソングライターはいいますか？ また、歌はいつ頃から歌い始めたのですか？

玉置浩二さんや Chage さん、海外ではジョン・メイヤーやラウル・モドン、コールドプレイとかも好きですね。声量を効かせて、繊細な部分と激しい部分を表現できるアーティストに憧れます。中学 2 年生の時に『ミュージック・ステーション』で安全地帯の玉置さんが「あの頃へ」を歌っているのを聴いて衝撃を受けたんです。それで独学でギターを弾きながら、曲を作って歌詞も書いて歌い始めたんです。自分でライナーも書いたり、曲が使われるドラマの名前まで考えていたんです（笑）。



●石坂敬一さんとも縁深いビートルズは好きですか？

もちろんビートルズも全アルバムを聴いています。僕の好きなバンドから遡って聴いていました。一番好きなアルバムは『ホワイト・アルバム』ですね。

●プロのミュージシャンになろうと決めたきっかけや転職について聞かせて下さい。

14歳の頃から音楽を聴き出して、音楽は凄く好きだったんですけど、元々凄く人見知りで、当時は人前に立てる性格ではなかったの、自分には無理だろうと思う気持ちの方が強かったんです。でも、ひたすら楽曲は書き貯めていて、20歳を過ぎた頃に性格も改善されていて、今なら出来るかなと思っていた頃に、大学で声を掛けて頂いていた軽音楽部に入ってバンドを組んだんです。真剣に音楽をやろうと思ったのはそこからですね。その当時はオアシスやレディオヘッドなどUK色の強いバンドで、僕はギター＆ヴォーカルを担当していました。ライブの最後で弦を引きちぎるみたいな結構マニアックな音楽で、当時は荒れていましたね(笑)。バンドとしてデビューの話もあったんですけど、メンバーのギタリストが病気になってしまって、デビューの話も無くなって、結局バンドも解散してしまったんです。その時に音楽を辞めようか迷ったんですけど、辞めたら絶対に後悔すると思って、とりあえず行動に移そうと、一人で路上で演奏し始めたんです。それで、バンドの時に作った楽曲を一人で路上で歌うんですけど、全く受け入れられないというか、ロックの時に難しい言葉を並べてしまっていたんですね。ソロでは何も

伝わらないという壁にぶち当たって、どうやったら伝わるのか、どうやったら歩いている人たちの足を止めることが出来るのか考えていた時に、やっぱりもう一度ちゃんと曲作りをしなればといけないと思ったんです。もって言葉をシンプルに、どういう言葉を投げかけたら相手に伝わるのか、自分が相手だったらどういう言葉を投げかけて欲しいかといろいろと考えたんです。言葉もどんどんシンプルになって、そこから徐々に状況が変わっていきました。

●シンガーソングライターとして活動されていますが、バンドに対する思いはありますか？

元々バンドで音楽をやっていましたし、バンドへの憧れは強かったですね。バンドで売れば一番良かったんですけど、基本的に団体行動が苦手で、気を遣ってしまう性格なので、バンドには向かないですし、自分にはソロとして今の形がベストだと思います。でも、いずれは自分の名義でバンドを組んでみたいですね。

●海外進出への思いはありますか？

今回のメジャーデビューアルバムのタイトル『KEIJI』も、イチローさんが“ICHIRO”として世界中の人にメジャー・リーガーとして認識されているように、僕も『KEIJI』というタイトルで、“KEIJI”という単語を見るだけで、川島ケイジというアーティストを想像してもらえるように、いずれは世界にこの名前がとどろくようにという思いも込めて付けたので、いつか海外に進出してみたいですね。

●今、悩んでいることなどはありますか？

歌に関しては自分の理想にまだ到達していないので、自分の体との対話など、日々常に研究はしています。ここに力を入れたらどうかとか、ここをこういう表現にしたらどうかとか、英語の部分とかもそうなんですけど、日々のコンディションで声も変わってしまう部分もあるので、自分なりのルーティーンを増やして、精神的な面でも、発声的な面でも、毎日研究しています。ライブのペースに関しても、いろいろな場所、その空間や人によってライブというもののは日々変わるので、それを毎日感じていたい、そういうことが生きている実感というのが自分の中にあるので、本音では毎日歌っていたいんです。でも、もっともったい曲を作っていかなければならないですし、いいパフォーマンスをするための準備は必要なので、今はその準備期間だと思っています。

●気に入っているライブハウスはありますか？

去年歌わせて頂く機会があった渋谷にあるジャズクラブ「JZ Brat」は良かったですね。背景が青く光るステージの感じも良かったですし、音響も良かったです。あと、山梨に舞踏家の田中泯さんがオーナーの「桜座」という場所があって、客席が畳で段々になっていて、座席には座布団が敷かれていて、和風な空間がいいんです。それと、僕の地元和歌山の「甲羅館」というライブハウスも好きですね。元々お土産屋さんだったんですけど、そこをライブハウスに改造したんです。今回 Chage さんのホールツアーで全国 10 か所いろいろな場所、2000 人規模のホールを回るので、そこまでの広さは「Chage Fes.」以来なので、凄く楽しみです。自分の憧れ、目標は「日本武道館」で歌うことなんですけど、「フジロックフェスティバル」とか「サマーソニック」とかフェスには出てみたいです。

●ジャンルを問わず、川島さんが大きな影響を受けたアルバムを挙げてもらえますか？

まずはレディオヘッドの『OK コンピューター』というアルバムですね。あと、これは映像作品なんですけど、安全地帯のコンサートを一点録りした『安全地帯アンプラグド・ライブ!』。本当は前日のコンサートをいろいろな角度で収める予定だったんですけど、結局翌日の本来録る予定ではなかったライブが凄く出来が良く、それを収めた作品です。玉置さんが途中でギターを壊したりしているんですけど、その時の玉置さんの狂気に満ちた感じが凄いです。この作品は擦り切れるほど観ましたね。それと、ガンズ・アンド・ローゼズのデビュー・アルバム『アベタйт・フォー・ディストラクション』とニルヴァーナの『MTV・アンプラグド・イン・ニューヨーク』は本当に良く聴きました。あと、初めて買ったレコードは X の『サイレント・ジェラシー』です。

●川島さんにとって音楽とは何ですか？

生きている実感ですね。いろんなことをやりましけ

ど、自分の中で音楽以上に興味が持てることはなかったですし、唯一自分がずっとやり続けて来れたものです。今でもやっぱり大好きですし、一生続けていくものだと思います。

●川島さんの現在の夢は何ですか？

次のアルバムを出すこと。今はその気持ちが一番強いですね。個人的には年内に出したいと思っていますけど、具体的に動き出すのは Chage さんのホールツアーが終わってからですね。

●最後に「The Walker's」読者と、川島さんのファンにメッセージをお願いします。

ぜひ生で僕の歌を聴いて実感して欲しいので、4 月 11 日のコンサートに足を運んで下さい！ それと、僕のデビューアルバム『KEIJI』を聴いて頂きたいですね。

4 月 11 日（火）に開催される“川島ケイジ Music is My Answer スペシャル・コンサート 2017”（P16 参照）は必見&必聴！ また、5 月 8 日（月）を皮切りにスタートする“Chage Hall Tour 2017 ~Have a Dream!~”のゲストアーティストとして全国 10 か所を回ることも決定！

プライベートでは走ることが好きで、嘗て少林寺拳法を習っていたこと、そして、プロレスファンだったことも判明。個人的には“格闘技の聖地”＝後樂園ホールなどで、プロレス団体の試合前のセレモニーに登場し、自慢のヴォーカルでアカペラによる「君が代」を斉唱する姿にも期待したい。

昨年の大晦日に天国に旅立たれた石坂敬一さんが海外で勝負できる日本人アーティストとして最期に目をかけ、大きな期待を寄せていた川島ケイジ。石坂さんの遺志を継ぐべく、ジャンルや国境を越えて活躍するアーティスト、シンガーソングライターを目指し、そう遠くはない未来にアジア進出や日本人アーティスト“KEIJI”として武者修行のような形で欧米で勝負して欲しいと願っている。今年は大きな飛躍を遂げる年になるであろうと予感させるインタビューでした。（加瀬）

川島ケイジ Official Website
<http://www.keiji-kawashima.com>

川島ケイジ 待望のメジャーデビューアルバム！



KEIJI
KAWASHIMA
KEIJI
UNIVERSAL MUSIC
UPCY-7164
NOW ON SALE
¥2,000（税込）